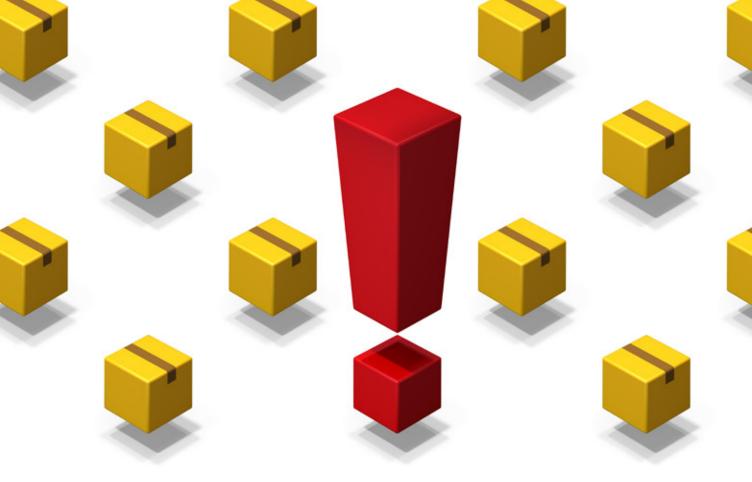
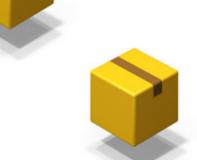
公益財団法人 日本ハンドボール協会 編
平成30年12月1日発行(毎月1回1日発行) 通巻586号

# ハンドボール

12
DEC.2018
No.586

●平成30年度全日本学生ハンドボール選手権大会
●第22回日韓スポーツ交流

公益財団法人 日本ハンドボール協会

# 世界が驚く、
# 物流をつくろう。

東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー

詳しくはこちら http://www.yamato-hd.co.jp/tokyo2020/ 世界が驚く、物流をつくろう。 検索

# プレミアム・リゾートという選択

## 一戸建て住宅型有料老人ホーム

**メディケアサポートHABA**

**2017年12月伊豆高原にオープン**

**12/1(金)より予約申し込み開始！**

**☎ 0557-51-7887 (担当　土屋・はば)**

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ )シリーズや、社有物件も展開！
待望の2020年『東京オリンピック』まで、いよいよカウントダウンが始まりました。
弊社も選手達と共に邁進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは
女子ハンドボールを応援しています!!

**株式会社ユリカコーポレーション**

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188　　http://yurika-co.jp/

Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO

# Behind Your "Best"

車いすバスケットボール
鳥海 連志 選手

バドミントン
松友 美佐紀 選手

競泳
瀬戸 大也 選手

バドミントン
髙橋 礼華 選手

ハンドボール
原 希美 選手
ハンドボール
永田 しおり 選手
ハンドボール
横嶋 彩 選手

空手
喜友名 諒 選手

パラ水泳
一ノ瀬 メイ 選手
パラ水泳
木村 敬一 選手
パラ水泳
山田 拓朗 選手

5人制サッカー
加藤 健人 選手
5人制サッカー
黒田 智成 選手



## 味の素㈱は「勝ち飯®」メニューを選手に提供することで、東京2020オリンピック・パラリンピック日本代表選手団を応援しています。

＼ がんばる人のチカラになるごはん ／

# 勝ち飯®

オリンピック・パラリンピック日本代表選手団が、世界で勝つために。
味の素㈱は、独自の栄養プログラム「勝ち飯®」メニューで、
彼らのカラダづくりを支えています。

東京2020オフィシャルパートナー
（調味料、乾燥スープ、アミノ酸ベース顆粒、冷凍食品）

ハンドボール 12月号 No.586

【表紙の写真】平成30年度全日本学生ハンドボール選手権大会、男子優勝の大阪体育大学（写真提供：スポーツイベント社）

# CONTENTS



**がんばれハンドボール 20 万人会「サポート会員」10 月入会・継続会員**

【埼玉】小澤隆志、小澤智子【東京】東尾吉信、寺嶋　潔、荒川晶夫、荒川留美、福田　伸【神奈川】種村明彦【福井】田中晴美【静岡】細澤　覚【愛知】中島　猛【三重】橋本行弘、橋本由紀子【岐阜】飯鉢直人、飯鉢日登美【京都】古賀久美【大阪】伊藤慎吾、中塚冨佐子、泉　雅子、柳　洋子、平田隆一、高野夏樹、平田美奈子

次号 1 月号（No. 587）は 1 月 1 日発行予定です。

# 私のポスト2020

公益財団法人 日本ハンドボール協会 常務理事
村林　裕

私の夢は、スポーツクラブを作り、育てることだ。スポーツクラブを通じて“人”を育てたい。“人”とは、選手のみにあらず、指導者ならびにクラブを運営する人さらには経営者であり、スポーツクラブを人材育成の場にしたい。

クラブの必須構成種目は、①中学生ハンドボール、②視覚障がい者の陸上競技としている。

他の種目募集中といえるようになれば素晴らしいが、まだ具体的な芽さえないので大きなことはいえない。

毎夏、中学生のハンドボールクラブ選手権を見学している。日本のスポーツは中学校の部活動をベースに育ったといっても過言ではない。しかし、すべてをこの部活に頼ることには限界があることをスポーツ関係者は誰しもが認識をしていた。同時に、中学校部活そのものは有意義かつ大きな役割を担っている現状から、一気に舵をきることは現実的ではなく、すべきでもない。そうした社会において、あるべき姿を求めて奮闘されている方々の姿を拝見することから、いつの日か、私も、ここにチームとして参加する、運営に協力する、さらには日本のスポーツを改革するお役にたちたいと思うようになった。

ただし誤解があってはいけないので、記すべきことがある。部活に頼ることの限界とは言ったが部活を否定するものではない。日本は学校対抗がもっともっと盛んになるべきと思う。市内の〇中対〇中の試合に街の方々が多数観客として集まり、どちらかの中学校チームを応援して盛り上がるようになったらワクワクしませんか？　めざすところは“お祭り”だ。サッカーの起源をご存知の方も多いと思う。隣りの村同士が一つのボールを運び合い、村人みなが参加して、まさに“お祭り”であったという。中学校それも中学校ハンドボールチームをもって街の人々が繋がり、コミュニティを構成することができたならば素晴らしいと思う。すでに「ハンドボールの町」はいくつも実在している。ハンドボールには、町対抗の“お祭り”となる潜在能力がある。

フェンシング協会の太田会長から次の言葉をきいた。「アスリートファーストとはアスリートが存分に競技をできる環境を作ること」。中学生が存分にハンドボールをできる環境を作ること、これぞ「アスリートファースト」と考え、人生の区切りを迎える来年、具体的な準備に入りたいと考えている。

# 理事会・常務理事会より【平成30年度10月理事会】

以下の理事会にて、審議・承認・報告された主な事項です。

開 催 日：平成30年10月13日〈土〉
場　　所：味の素ナショナルトレーニングセンター
審議事項：①特任副会長の委嘱（木原稔氏）＝承認
②顧問の任命（市原則之氏、山下泉氏）＝承認
③日本スポーツ協会の次期評議員の推薦（湧永寛仁氏）、理事の推薦（田口隆氏）＝承認
④日本オリンピック委員会の次期評議員の推薦（湧永寛仁氏）＝承認
⑤倫理委員会の委員選任＝承認
⑥平成30年度JOC強化指定選手推薦者（第3四半期）＝承認
⑦平成30年度第二次補正予算案＝承認
⑧第68回日本スポーツ大賞の推薦（U-24女子日本代表チーム）＝承認
⑨強化本部、競技本部よりの報告
⑩2019女子熊本組織委員会よりの報告
⑪2020オリパラ東京組織委員会よりの報告
⑫日本リーグよりの報告

## ミニ情報

### 指導者資格を取りませんか

（公財）日本スポーツ協会から平成 30 年 10 月 1 日現在の公認スポーツ指導者登録者数が公表されました。
競技別指導者資格（以下の４つ以外は省略）では、

| | |
|---|---|
| 指導員 | 114,005 名 |
| 上級指導員 | 11,924 名 |
| コーチ | 19,634 名 |
| 上級コーチ | 6,174 名 |

の合計 151,737 名とあります。
内、ハンドボール競技で見れば

| | |
|---|---|
| 指導員 | 1,021 名 |
| 上級指導員 | 21 名 |
| コーチ | 534 名 |
| 上級コーチ | 83 名 |

の合計 1,679 名です。
他競技と資格保持の合計数と資格保持者の増加割合を見比べると

| | | | |
|---|---|---|---|
| ハンドボール | 合計 | 1,679 名 | （対 2013 年比　101%） |
| **サッカー** | 合計 | 37,606 名 | （対 2013 年比　116%） |
| **ホッケー** | 合計 | 745 名 | （対 2013 年比　151%） |
| **バレーボール** | 合計 | 17,253 名 | （対 2013 年比　118%） |
| **バスケットボール** | 合計 | 9,635 名 | （対 2013 年比　152%） |

と他競技では指導者登録数の顕著な増加傾向が見られます。
日本スポーツ協会では、生涯を通じた「快適なスポーツライフ」を構築するため、その推進の中心となる様々な指導者を養成しています。この機にあなたも「公認スポーツ指導者」になってみんなの「快適なスポーツライフ」をサポートしてみましょう。

### ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」を発表

ユニセフ（国連児童基金）と日本ユニセフ協会は「世界こどもの日」の 11 月 20 日、スポーツと子どもの課題に特化したユニセフとして初めての文書、『子どもの権利とスポーツの原則』（Children's Rights in Sport Principles）を発表した。
1989 年に国連総会で採択された「児童の権利に関する条約」で、遊びやレクリエーションは子供の権利とされている。指針ではスポーツ団体や指導者、企業、保護者らに対し、暴力・虐待の撲滅や通報窓口の設置、過度なトレーニングを控えることなどを求めている。
Unicef は以下のＨＰを参照ください。
https://childinsport.jp/

この頁すべて　写真提供：スポーツイベント社

高松宮記念杯男子第61回・女子第54回

# 平成30年度 全日本学生ハンドボール選手権大会

日　時：平成30年11月10日(土)～14日(水)
会　場：丸善インテックアリーナ大阪、金岡公園体育館、原池公園体育館

## 最終順位

男子　優　勝：大阪体育大学
　　　準優勝：福岡大学
　　　３　位：早稲田大学、中部大学
女子　優　勝：大阪体育大学
　　　準優勝：東京女子体育大学
　　　３　位：東海大学、筑波大学

## 個人表彰

| 男　子 | | 女　子 | |
|---|---|---|---|
| **優秀選手賞** | | | |
| 原田大夢 | (大体大 5CP) | 相澤菜月 | (大体大 5CP) |
| 阿部成将 | (大体大 10CP) | 服部沙紀 | (大体大 8CP) |
| 堀田陽大 | (大体大 12GK) | 中山佳穂 | (大体大 13CP) |
| 中村匠 | (福岡大 1GK) | 犀藤菜穂 | (大体大 12GK) |
| 広川功介 | (福岡大 6CP) | 斗米菜月 | (東女体 4CP) |
| 伊舎堂博武 | (早稲田 3CP) | 金城ありさ | (東女体 18CP) |
| 内山大地 | (中部大 3CP) | 海老原加英 | (筑波大 2CP) |
| **特別賞** | | | |
| 瀧三千宏 | (大体大 18CP) | 眞方彩帆 | (東海大 4CP) |
| 久保慶悟 | (福岡大 20CP) | 山根楓 | (東女体 6CP) |
| 山崎純平 | (早稲田 2CP) | | |
| **優秀監督賞** | | | |
| 下川真良 | (大体大) | 楠本繁生 | (大体大) |

## 関西学生ハンドボール連盟理事長　中川 昌幸

　高松宮記念杯男子第61回女子第54回全日本学生選手権大会は男子32校、女子32校の全国の精鋭が集結し、11月9日に大阪市の丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）において開会式が行われ、熱戦の火蓋を切った。

　男女ともに一回戦より熱戦が繰り広げられた。特に男子では一回戦から3試合が延長戦となるなど実力伯仲の大会となった。

　三回戦を終わり、準決勝の組み合わせは男子が早稲田大学対大阪体育大学、中部大学対福岡大学。女子が大阪体育大学対東海大学、筑波大学対東京女子体育大学という組み合わせとなった。男子でベスト4に3チーム以上の西日本学連所属チームが残ったのは1964年の第7回大会以来、実に54年ぶりとなった。

　準決勝でも激闘が繰り広げられたが、男子では大阪体育大学が早稲田大学を32対28、福岡大学が中部大学を28対26でそれぞれ下し、決勝へと駒を進めた。女子は大阪体育大学が東海大学を35対19、東京女子体育大学が筑波大学を25対20で下し、決勝進出となった。

　女子決勝戦は6年連続7度目の優勝を狙う大阪体育大学と9年ぶり17回目の優勝を狙う東京女子体育大学の東西対決となった。試合は決勝にふさわしい熱戦となり、24対22で大阪体育大学が東京女子体育大学を振り切り、男女を通じて初の六連覇の偉業を成し遂げた。

　女子決勝に引き続き行われた男子決勝戦では17年ぶり10度目の優勝を狙う大阪体育大学と初の決勝進出となった福岡大学の西日本インカレ決勝の再戦となった。試合は30分の前後半では決着が着かず、今大会6試合目の延長戦となった。延長前半で大阪体育大学がリードを奪うも延長後半に福岡大学が追いつき、今大会初の第二延長戦へと突入した。第二延長でも再び大阪体育大学がリードを奪い、今度は福岡大学の追撃を振り切り、大阪体育大学としては初の男女アベック優勝を成し遂げた。

　今大会は女子では大阪体育大学の史上初の六連覇がかかる大会であった。そのプレッシャーに負けずに偉業を成し遂げた大阪体育大学には心より拍手を送るとともにねぎらいの言葉を送りたい。また、男子では連日、どちらに転んでもおかしくない大熱戦をものにして優勝した大阪体育大学の粘りとチーム力に感服するとともに賛辞を送りたい。大阪の地で関西学連に所属するチームがアベック優勝という最高の結果となり、大会成功に向けての準備や運営での苦労も吹き飛んだ感がある。心よりお礼を言いたい。

　今大会ではハンガリーよりアンドルカ・ミクロス、フッカー・ロベルトの両氏を審判員としてお招きした。ヨーロッパチャンピオンズリーグも担当する彼らのレフェリングはわれわれにとってのお手本となり、これからのわが国のレフェリングのレベル向上に寄与してくれたと感じている。彼らにも謝辞を述べたい。

　また、今大会ではマナーアップキャンペーンと称し、応援時や観客席でのマナーアップ動画を制作し、SNSで配信した（出演は関西学連所属選手）。この試みは反響を呼び、一定の成果をあげたのではないかと感じている。また、メイン会場である丸善インテックアリーナ大阪入口には協賛をいただいた方々からの応援メッセージビデオを100インチスクリーンで常時上映した。こちらも反響を呼び、多くの方からお褒めの言葉をいただいた。男子決勝戦のハーフタイムには来年2019年に熊本県で行われる女子世界選手権のPRに熊本県マスコットキャラクターであるくまモンが来場し、会場の盛り上げに一役買ってくれた。

　主管学連としていかにしてインカレを盛り上げることに腐心した日々であったが、選手をはじめ来場してくださった方々の心に思い出として残ってくれたのならば至上の喜びである。これからもこの気持ちを胸に学生ハンドボールの発展に寄与していきたい。

　最後になりましたが、日本ハンドボール協会、全日本学生ハンドボール連盟、協賛をいただいた方々、そして今大会に関わっていただいたすべての人に感謝の気持ちを述べるとともに、より一層のご発展を祈念して私の総括とさせていただきます。ありがとうございました。

写真提供：スポーツイベント社

大阪体育大学男子ハンドボール部監督　**下川 真良**

2018 年 9 月の今世紀最強の台風 21 号により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。現在も復興活動が続く中、全日本学生ハンドボール選手権大会を無事終えることができ、多大なるご支援、ご協力をいただきました関係者の方々に心より感謝申し上げます。

この度、私たち大阪体育大学男子ハンドボール部は 11 月 10 日～ 14 日まで地元大阪で開催されました高松宮記念杯男子第 61 回女子 54 回全日本学生ハンドボール選手権大会において 17 年ぶり 10 回目の優勝を果たすことができました。これも理事長・学長をはじめとする大学関係者の皆様方、これまで歴史を築いてこられた宍倉先生、温かい目で見守ってくださる小林部長、アドバイスをくださる楠本女子監督、チームを裏で支えてくださる成澤コーチ、OB・OG の方々、学生を支え応援してくださる家族の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

今大会のテーマとして部訓の「Try our best !」はもちろんのこと「大体大らしく」「感謝」を掲げていました。「らしさ」が出ていない時間もあったのですが、試合を重ねるごとに雰囲気もよくなり、準々決勝日本体育大学戦の 7 点ビハインドや準決勝早稲田大学戦の 5 点ビハインド、決勝福岡大学戦での第 2 延長へもつれ込む展開など苦しい状況でも「らしさ」を出し、最高の結果を出してくれた学生には本当に感謝しています。

今回の大会は私が宍倉先生の後を継ぎ大阪体育大学の指導者として初優勝、対戦相手である福岡大学も初めての決勝、ベスト 4 に西日本勢が 3 チーム残ったこと、また女子においては史上初となる大会 6 連覇、大阪体育大学ハンドボール部として初のアベック優勝と初物づくしの大会となりました。平成最後のこのような大会で優勝できたこと、男子ハンドボール部として宍倉先生を胴上げできたことを本当に嬉しく思います。

繰り返しになりますが、大会関係者、学校関係者、ご家族の皆様、OG・OB、学生達に感謝の意を表し、今回の優勝に満足することなく、応援してくださる皆様方に恩返しができるようさらに精進を重ねてまいりますので、変わらぬご支援・ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大阪体育大学女子ハンドボール部主将　**犀藤 菜穂**

６連覇へのプレッシャーに加え、大阪開催ということもあり、周りからの期待は痛いほど感じていました。たくさんの方々に「応援に行くから」と言葉をかけてもらうたびに、嬉しい反面、絶対に勝たなければならないという焦りも募りました。また、６連覇への挑戦といわれていましたが、私たちがその記録に挑戦できるのは、先輩方がここまでの道を作ってきて下さったからであり、そこに至るまでの楠本先生のご指導があったからです。私たちは偶然その６年目であり、このような環境を作ってきて下さった方々には感謝の気持ちで一杯です。ですが、恵まれた環境で十分にハンドバールの練習が出来ているとは分かっていながらも、その重圧は相当なもので、いつも心のどこかで負けたらどうしよう、体大の歴史に泥を塗ってしまうのではないかという恐怖を感じていました。時には、焦りや不満からチーム内で衝突することもありましたが、チームだからこそ、それを乗り越え、支え合うことができました。この 44 人だったからここまでくることができたのだと思います。

楠本先生の求めるハンドボールはレベルが高く、要求されることを体現できず、悩む日々でした。しかし、いつでも熱のこもった指導をして下さり、ハンドボール以外でも常に新しい課題を与えてくださるなど人として成長するきっかけ作っていただきました。「上に立つ人間」にふさわしい人間のあり方を考えさせられました。

この一年間で、春リーグ、秋リーグ、西日本インカレ、全日本インカレとありましたが、どの試合でも、大学関係者の方や、家族、友人など本当に多くの方に応援に来ていただき、その全てがチームの力になりました。インカレでは、年に一度しかない学生日本一を決める大会ということもあり、チーム全員それぞれが特別な思いで臨みました。

初戦の国士舘大学戦、二回戦の中京大学戦ともに、インカレという雰囲気に飲まれ、自分たちのハンドバールができていませんでした。ミーティングを重ね、技術的な面だけでなく気持ちで負けないということを話し合い、三回戦の桐蔭横浜戦からは、全員がいつも通りのプレーができるようになっていきました。準決勝の東海大学戦では、ようやく思いきったプレーで体大らしいハンドボールができました。決勝の東京女子大学との試合では、序盤からなかなかペースをつかめず苦しい展開が続きましたが、今までやってきたことをこの一戦にぶつけるという思いでハンドボールができました。終了のブザーが鳴った瞬間の応援席からの歓声や、仲間たちのやりきったような、そしてどこか安心したような顔を見た時、ここまで築き上げて下さった先輩方、応援して下さった多くの方々、そして何よりこのチームを日本一に導いて下さった楠本先生に感謝の気持ちが溢れて出てきました。６連覇という大きなプレッシャーをはねのけ優勝を手にした時、言葉では表せない嬉しさが涙とともに込み上げてきました。チームで歩んできた１年間は私たちにとってかけがえない宝物です。たくさんのご支援本当にありがとうございました。

この頁すべて　写真提供：スポーツイベント社

# 戦　評

## 男子準決勝（11 月 13 日）

### 大阪体育大学　32（16-16、16-12）28　早稲田大学

開始から、早大ペースで試合が進行。特に早大の主将の山﨑の 5 連続得点が早大に流れを持ち込んだ。その後、一進一退のゲーム進行であったが 20 分過ぎより、大体大が DF システムを 3-2-1 の立体 DF に変更。これが功を奏し早大の得点ペースが低下し、大体大が同点に追いついた。

後半は大体大ペースで開始。特に前半に引き続き立体 DF が機能しそこからの速攻の連取。また、7m スローを確実に決めて優勢を築いた。5 ～ 15 分は互いに得点を重ねた。その中で両軍の GK の好セーブも試合をより締まったものにした。残り 10 分で大体大湯浅の活躍により 3 連取をした大体大が粘る早大を突き放した。

### 福岡大学　28（14-10、14-16）26　中部大学

序盤から福岡大学 GK 中村、中部大 GK 篠田が攻守を連発し、試合は一進一退の様相を呈する。中盤、福岡大は吉田のミドルシュートなどで突き離そうとするが、中部大は川田のミドルシュートでついていく。しかし、福岡大は末岡の活躍で流れを掴み、14 対 10 と 4 点リードで折り返す。

後半に入っても福岡大は GK 中村のファインセーブから速攻につなげ、着実に加点していく一方、中部大は山城のカットインなどで応戦するが、徐々に差が開き始める。しかし、中部大は GK 篠崎の活躍で流れを引き戻し、残り 1 分 27 対 25 の 2 点差と迫る。そこから 1 点をもぎ取り 1 点差に迫るが最後は福岡大久保にとどめを刺され、28 対 26 で福岡大が決勝へと駒を進めた。

## 男子決勝（11 月 14 日）

### 大阪体育大学　38（14-15、12-11、4-2、0-2、4-3、4-2）35　福岡大学

福岡大学のスローオフでゲームが開始。吉田のシュートで福岡大学が先取。一方大阪体育大学も 7m スローにより得点。その後、一進一退の攻防で進み 15 分では 8 対 8 の同点。その後、福岡大学が連続得点するものの大体大も負けじと得点を重ね 10 対 10 の同点から大体大の速攻により 21 分初めて大体大がリードするも福岡大も得点を重ねるというシーソーゲームとなる。

後半開始早々大体大が得点。その後、 1 点を争う一進一退の攻防が展開される。15 分経過で 18 対 18 の同点お互い一歩もゆずらぬ展開となる中 18 分に大体大がタイムアウトをとるが、その後も展開はかわらずゲームが進む。20 分福岡大 1 点リードでタイムアウト後吉田のシュートで 2 点差となる。しかし、大体大も速攻で 2 点を取り 29 分で 25 対 25 の同点、大体大湯浅のシュートが決まり、あと 10 秒で福岡大がシュートを決め 26 対 26 で延長へ。

第一延長前半大体大が 3 分で 3 点連取するも、福岡大が粘り 30 対 30 で第 2 延長へ。第 2 延長に入り福岡大、大体大ともに退場者を出す展開となり 7m スローの連続となるも前半 3 対 4 で大体大リード。後半 38 対 35 で大体大が優勝。

## 女子準決勝

### 大阪体育大学　35（16-11、19-8）19　東海大学

準決勝、大体大 VS 東海大の激突、立ち上り大体大 5 番のジャンプシュート、一方東海大エース 9 番のシュートが決まり互角の様相。その後、両チーム 3 点ずつ取り合い 10 分には 4 対 4 となったところで大体大が速攻 2 本ロング 1 本で 7 対 4 とリードする。さらに、8 番、15 番が速攻を決め 15 分 31 秒 9 対 5 となったところで東海大がタイムを要求する。大体大の DF が堅く厳しい中、7m スローやカットインで 23 分に 12 対 9 と追い上げる。大体大はタイムアウトの後、ポストカットインで引き離し 16 対 11 で前半終了。

後半開始、大体大 GK のサイドシュート阻止から、速攻で 4 番が決め先制すると速攻を連発、3 分 29 秒、19 対 11 となったところで東海大がタイムを要求。しかし、10 分には 22 対 12 と 10 点差に広がる。大体大は 5 番のセンターのリードオフシュートで東海大を寄せ付けず、13 番左腕エースが得点を重ねるなどし、21 分には 30 対 18 と差が広がる。その後も、大体大は攻撃を緩めず、35 対 19 で圧勝した。

### 東京女子体育大学　25（12-10、13-10）20　筑波大学

準決勝、東女体大 VS 筑波大。立ち上りから、両チームの堅い DF と GK の好守が続く。先制点は 2 分 51 秒、東女 9 番のペナルティにて先制するが筑波大もペナルティで取り返し、一進一退の攻防が続く。その後も、緊張した試合が続く中 17 分 50 秒、筑波 6 番退場となるが、筑波大 GK の好守があり、連続得点を許さない。28 分 26 秒、東女体大 10 対筑波大 9 となったところで、筑波大タイムアウトを要求。タイムアウト明け、東女体大がミスを逃さず、6 番 4 番の速攻での連取に成功。筑波大も終了間際に 2 番のミドルで取り返し 12 対 10 で前半終了。

後半開始後、筑波大は GK1 番の好守と 3 番の速攻及び 2 番のロングにより、同点に追いつく。しかし、東女体大も 11 番 14 番の真ん中 2 枚 DF が、厚く守り、6 番 18 番の素早い速攻に繋げ後半 13 分、20 対 14 とリードを広げる。筑波大も 1 番 GK の再三の好セーブにより、粘りを見せるが、東女体大 4 番を中心とした安定した試合運びを見せ、25 対 20 で東京女子体育大学が決勝へ駒を進めた。

女子決勝

### 大阪体育大学　24（13-10、11-12）22　東京女子体育大学

いよいよ迎えた運命の一戦、東女体大のスローオフにて開始。立ち上り堅さのみられる大体大に対し、東女体大金城のミドル・速攻などで 0 対 3 とリードする大体大の初得点は 7 分過ぎ中山のロング。これを口火に相澤の速攻連取で 3 対 3 と振り出しに戻す。その後、大体大が服部の速攻などで 4 連取し突き離しにかかるが、この日絶好調の東女体大金城が前半だけで 7 得点をあげる活躍をみせ、13 対 10 大体大 3 点リードで前半終了となった。

後半に入り、守ってからの速攻が出だした大体大が徐々に点差を広げ始めるが東女体大も斗米・金城のカットイン・ミドルで対抗する。後半 15 分、21 対 15 とこの日最大の 6 点差が開いたところで大体大笠井が退場となるが犀藤の好セーブによりしのぐ。しかし、東女体大も必死のディフェンスから追い上げをみせ、残り 1 分で大体大 1 点リードとなる。しかし、笠井のカットインにより再び点差を開げた大体大がリードを保ち 24 対 22 で大体大が勝利した。女子第 54 回目の大会において大体大は史上初 6 連覇達成の偉業を成しとげた。

## 初出場校の紹介：青山学院大学

### 青山学院大学ハンドボール部監督　三須義之

青山学院大学ハンドボール部は今年で創部 50 周年を迎えました。

私達は関東学生リーグ 1 部昇格と全日本インカレ出場を目標に日々練習に励んでいます。私の現役時代を含めその目標は達成されませんでしたが、監督に就任後 2 部初優勝、初の 1 部の入替戦に挑戦することができました。結果は残念でしたがその後も 1 部入替戦には出場したりと着実に力はつけてきたと思います。

もう 1 つの目標であった全日本インカレ出場。東日本インカレには何度も出場するも、全日本へは惜しくも届かずでしたが、今年の函館で行われた東日本インカレで B 組を全勝で優勝することができ、念願であった全日本インカレ出場の切符を初めて手に入れることができました。

全日本インカレでは全国を楽しみつつ、１つでも上を目指し青学らしく戦えればと思います。

# 第22回日韓スポーツ交流

## 派遣・受入／男子・女子

### 男子

派遣　開催期間　2018年10月2日～10月7日
　　　開 催 地　韓国・昌原市
受入　開催期間　2018年10月18日～10月23日
　　　開 催 地　愛知県・名古屋市

◆派遣

| 役職 | 名前 | 所属 |
|---|---|---|
| 監督 | ネメシュローランド | (公財)日本ハンドボール協会<br>法政大学 |
| コーチ | 大原雅広 | (公財)日本ハンドボール協会<br>つくば市立手代木中学校 |
| コーチ | 芳村優太 | (公財)日本ハンドボール協会 |
| トレーナー | 篠原　博 | (公財)日本ハンドボール協会<br>宝塚医療大学 |

◆受入

| 役職 | 名前 | 所属 |
|---|---|---|
| 団長 | 角　紘昭 | (公財)日本ハンドボール協会 |
| 監督 | ネメシュローランド | (公財)日本ハンドボール協会<br>法政大学 |
| コーチ | 大原雅広 | (公財)日本ハンドボール協会<br>つくば市立手代木中学校 |
| コーチ | 芳村優太 | (公財)日本ハンドボール協会 |
| トレーナー | 篠原　博 | (公財)日本ハンドボール協会<br>宝塚医療大学 |
| 総務 | 麻生　薫 | (公財)日本ハンドボール協会<br>倉敷市立東中学校 |

◆メンバーリスト

| 背番号 | 名前 | 所属 | 学年 | 身長 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 紅出勘太郎 | 氷見高校 | 高1 | 183 |
| 2 | 大竹徹大 | 藤代紫水高校 | 高1 | 180 |
| 3 | 林原空翔 | 藤代紫水高校 | 高1 | 182 |
| 4 | 新井駿佑 | 富岡高校 | 高1 | 173 |
| 5 | 近藤アレキサンダー偉一郎 | 岩国工業高校 | 高1 | 185 |
| 6 | 清水啓勝 | 高松工芸高校 | 高1 | 170 |
| 7 | 藤坂尚輝 | 北陸高校 | 高1 | 178 |
| 8 | 山下倖輝 | 藤代紫水高校 | 高1 | 180 |
| 9 | 松原敦希 | 浦和学院高校 | 高1 | 180 |
| 10 | 荒瀬　廉 | 神戸国際大学附属高校 | 高1 | 170 |
| 11 | 前田一鷹 | 瓊浦高校 | 高1 | 180 |
| 12 | 大山翔伍 | 藤代紫水高校 | 高1 | 180 |
| 13 | 伊禮颯雅 | 浦添市立神森中学校 | 中3 | 177 |
| 14 | 清黒瞳太 | 三郷市立北中学校 | 中3 | 176 |
| 15 | 下川陽向 | 大阪体育大学浪商中学校 | 中3 | 168 |
| 17 | 安達圭吾 | 大阪体育大学浪商中学校 | 中3 | 172 |

### 女子

派遣　開催期間　2018年10月2日～10月7日
　　　開 催 地　韓国・昌原市
受入　開催期間　2018年10月10日～10月15日
　　　開 催 地　熊本県・山鹿市

◆派遣

| 役職 | 名前 | 所属 |
|---|---|---|
| チームリーダー | 尾石智洋 | (公財)日本ハンドボール協会<br>東久留米市立西中学校 |
| 監督 | 古橋幹夫 | (公財)日本ハンドボール協会 |
| コーチ | 小田中叡人 | (公財)日本ハンドボール協会<br>ミズノスポーツサービス㈱ |
| トレーナー | 竹内いずみ | (公財)日本ハンドボール協会<br>かもめクリニック |

◆受入

| 役職 | 名前 | 所属 |
|---|---|---|
| 団長 | 河上千秋 | (公財)日本ハンドボール協会 |
| 監督 | 古橋幹夫 | (公財)日本ハンドボール協会 |
| コーチ | 小田中叡人 | (公財)日本ハンドボール協会<br>ミズノスポーツサービス㈱ |
| コーチ | 麻生　薫 | (公財)日本ハンドボール協会<br>倉敷市立東中学校 |
| トレーナー | 竹内いずみ | (公財)日本ハンドボール協会<br>かもめクリニック |

◆メンバーリスト

| 背番号 | 名前 | 所属 | 学年 | 身長 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 幡東妃美希 | 大分高校 | 高1 | 164 |
| 2 | 福井すみれ | 名古屋経済大学市邨高校 | 高1 | 170 |
| 3 | 濵口まお | 四天王寺高校 | 高1 | 172 |
| 4 | 山﨑　晶 | 大分高校 | 高1 | 160 |
| 5 | 藤原ひなた | 不来方高校 | 高1 | 172 |
| 6 | 山村　愛 | 名古屋経済大学市邨高校 | 高1 | 164 |
| 7 | 西田瑞歩 | コザ高校 | 高1 | 162 |
| 8 | 吉野珊珠 | 名古屋経済大学市邨高校 | 高1 | 165 |
| 9 | 布施　蓮 | 白梅学園高校 | 高1 | 162 |
| 10 | 萩尾ほのか | 大分高校 | 高1 | 170 |
| 11 | 石川　空 | 大分鶴崎高校 | 高1 | 163 |
| 12 | 中村理乃 | 高津高校 | 高1 | 166 |
| 13 | 樋口怜於奈 | 今治東中等教育学校 | 高1 | 157 |
| 14 | 伊藤結衣 | 白梅学園高校 | 高1 | 166 |
| 15 | 吉田七夕子 | 東久留米市立西中学校 | 中3 | 165 |
| 17 | 荒井美咲 | 三郷市立北中学校 | 中3 | 157 |

# ハンドボール競技日韓スポーツ交流男子・女子（派遣・受入）について

U16日韓交流チームリーダー　尾石 智洋

文部科学省が推進した『日韓スポーツ交流事業』は、スポーツを通じた国際交流事業として、我が国におけるスポーツの普及・発展に寄与することはもとより、諸外国との相互理解と友好親善の促進に大きな役割を果たす、極めて重要な意義を持つものです。

特に隣国である韓国との交流においては、サッカー2002年ワールドカップ日韓大会の共催を記念し、日韓両国の友好関係を一層推進するために、両国間のスポーツ交流、青少年交流の拡大を目的として、日韓両国政府の合意により「日韓共同未来プロジェクト」として、様々なスポーツ交流支援を推進しており、文部科学省・スポーツ庁より公益財団法人日本オリンピック委員会の選手強化委託事業（文部科学省・スポーツ庁/国庫補助）として、競技力向上を図ることを目的とし、日本ハンドボール協会が1997年度から毎年実施しております。

また、選手選考は、文部科学省・スポーツ庁が策定しましたスポーツ基本法の施行に伴い、JOCが進める「一貫指導システム構築」「競技者育成プログラム策定」に従いまして、若手選手層からタレント（優秀な選手）を発掘し、将来世界で活躍できる可能性を持った選手に育成して、統一された指導方法による一貫指導を実施しながら、指導者のレベル向上・情報共有・普及を目的としたナショナルトレーニングシステム（NTS）より、全国ブロックトレーニング・センタートレーニングの中から発掘し、その選手を育成するナショナルトレーニングアカデミー（NTA）から最終選出された選手構成です。

**成果と課題**

チームとしての結果を求められる中、男子ローランドヘッドコーチと女子古橋ヘッドコーチの元、育成期の選手に対して個々の課題を明確にして合宿を積み重ね、練習を地道に行う選手たちの姿を見ることができ、日本の将来の明るい光を見ることができました。そして今後継続して、この課題を克服する為には、一人一人の選手を応援する方々の支えの元、所属チームと協会が一つとなり、組織的に育成する環境をますます整える必要があると考えます。到達目標を明確にして、今後活動できる環境を日本中で考えていく必要があると思います。

また、このような将来有望選手を招集し、海外経験を積ませる中、指導者が、育成時期の指導方法・内容を更に深めていく必要があります。これまでの指導者の経験値だけで指導するのではなく、根拠のあるコーチングが現場に根付いていくように、海外のコーチング理論も研修し、国内でも実施されている指導者研修会も粘り強く実施し、検証していく必要があります。よって、ジュニア期のコーチングをもっと深め取り組むことが、今後の日本の重要課題と考えます。日本人のよさを最大限生かし、世界に通用する日本人の力を身に付けられることを考え続ける必要があると思います。

選手・スタッフともに、今回の日韓交流の経験を生かし、人間力を高めより一層ハンドボールの技能を磨き続けてほしいと思います。

各関係者の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました

### 戦評：男子・派遣

## 日本　17（11－8、6－6）14　韓国

試合序盤は互いに点の取り合いに。No.13やNo.3のロングで安定した攻撃をみせる韓国に対し、日本は松原のカットイン、藤坂のロングなどで応戦し、前半7分で5対3とリードする。それから一進一退の攻防が続くが、前半残り2分に荒瀬の技ありロング、山下の前半終了のブザーと同時に決まったゴールで、日本が11対8と3点差をつけて折り返す。

後半になっても日本の勢いは止まらず、林原、大竹のシュートで一気に突き放す。後半10分過ぎに15対8とし、この日最大の7点差と大量リードする。その後No.9の強烈なロングやカットインで15対12の3点差まで追い上げた韓国だったが、日本の両GK紅出、大山が安定したセーブで簡単に流れは渡さない。最後まで安定した試合運びをみせた日本が17対14の3点差で、勝利を手にした。

【個人得点】藤坂5点、松原3点、大竹・荒瀬・山下2点、林原・前田・近藤1点

### 戦評：男子・受入

## 日本　16（8－14、8－12）26　韓国

日韓交流戦（男子受入）は、韓国No.3のミドルでスタートした。すぐさま下川、荒瀬、藤坂の攻撃で巻き返そうとするが、韓国大型GKにノーマークを阻まれ、苦しいゲーム展開となった。日本はメンバーチェンジで落ち着きを取り戻そうとするが、韓国のフェイント、ミドルが止まらず、前半を8対14で折り返す。

後半、焦りが見える日本にミスが続き、韓国に連続得点を許してしまう。藤坂、新井、前田の猛攻により巻き返しを図るが、DFがうまく機能せず、16対26の韓国勝利で試合が終了した。訪韓では勝利しているだけに、悔しさの残るゲームであった。

【個人得点】藤坂5点、山下・荒瀬・前田・下川2点、新井・松原・伊禮1点

### 戦評：女子・派遣

## 日本　18（7－10、11－13）23　韓国

日本は前半開始早々に萩尾、西田、福井の3連取で試合の流れを掴んだかに思えた。しかし、その後韓国に5連取を許すなどし、前半を7対10で折り返す。

後半開始後、日本は韓国の6-0DFをなかなか崩せず、No.16の好セーブにも阻まれる。一方、韓国はNo.20の3得点を含む6連取で、この試合最大の9点差をつける。試合終盤、日本の高めのDFが機能し、濵口のパスカットからの得点で追い上げるも、18対23で韓国が勝利した。

【個人得点】濵口5点、福井3点、萩尾2点、石川2点、山崎・藤原・西田・樋口・伊藤・荒井1点

### 戦評：女子・受入

## 日本　23（10-13、13-10）23　韓国

前半開始早々、日本は高めの3-2-1DFが機能し、パスカットから布施、福井が得点。その後GK中村の好セーブから再び布施と3連取で好スタートを切った。その後、韓国もNo.7を起点にドリブルからの得点。更にスペースへのアシストパス、ポストへのパスと多彩な攻撃で反撃。7連取を許し、韓国ペースのゲームになるかと思われた。しかし日本も、GK幡東の好セーブから流れをとり戻し、樋口の強烈なランニングシュート、西田のしなやかなカットインで追撃し、10対13の3点差で前半を終える。

後半開始後、日本は6-0DFと3-2-1DFを上手く使い分け、GK幡東の好セーブもあり1点差にまで詰め寄る。韓国No.9に連続得点を許すも、萩尾の速攻、伊藤のポストシュートでついに韓国をとらえる。その後も一進一退の攻防が続き、1点差で迎えた残り5秒、石川のロングシュートで日本が追いつき、23対23の同点で試合終了となった。

【個人得点】布施4点、西田・石川・樋口3点、福井・藤原・萩尾・伊藤2点、山崎・荒井1点

INTERVIEW

# 慶應義塾大学
# 升澤圭一朗さんに聞く

「ますトレ 47 都道府県行脚」として今年の 12 月から全国を駆け巡り、『日本中の“GK”を“守護神”に』というテーマを持って活動に取り組む、慶應義塾大学４年ハンドボール部 GK の升澤圭一朗さんに話を伺うことができました。

**「ますトレ」のきっかけは？**

「ますトレ」は、たまたま Twitter に投稿した１本のゴールキーパー（以下 GK）トレーニングの動画から始まりました。2016 年にアップした GK トレーニング動画が Twitter 上で非常に高い注目を集めました。しかし、あまりに急激な注目度の高まりだったため、「たまたまなのではないか？」という疑問がありました。そこでもう数日後、別の GK トレーニング動画をアップしたところ、再び高い注目が集まり、GK トレーニングは多くの選手が求めているものだということに気がつき、僕の抱えていた疑問は確信に変わりました。そこで、アップした GK トレーニングを「ますトレ」とネーミングし、現在の「ますトレ」が始まりました。

しかし、僕自身は大きなジレンマを抱えていました。それは、基礎的な地味なトレーニングの注目度が低いことです。逆に注目度が高いトレーニングは派手で応用的なものばかりでした。僕は基礎的なトレーニングの重要性を伝えたかったのに、SNS を通すと、派手で応用的なトレーニングの方が拡散されてしまうのです。これは大きな問題です。だからこそ SNS での GK トレーニングの発信にとどまらず、「出張ますトレ」や「ますトレスクール」で実際に GK コーチングをしながら、「ますトレオンライン」を通してオンラインコーチングにも取り組んでいます。

**「ますトレ 47 都道府県行脚」を始めるきっかけは？**

「ますトレ」を始めて、約２年が経過しました。動画を SNS に投稿すれば、ほぼ確実に高い注目を集められるようにもなりました。しかし、毎日のように日本中の GK の悩みが僕のもとに届くのです。やはり、動画をアップするだけでは、本質的な改善に繋がらない。日本中の GK の悩みを解決して、チームの守護神にしてあげたい。その想いから「ますトレ 47 都道府県行脚」を敢行することを決心しました。

Twitter を使えば多くの人に GK トレーニング動画を届けることはできます。しかし、その動画を見て上達まで繋げるには限界があります。だからこそ、この「ますトレ 47 都道府県行脚」を成功させたいのです。

**「ますトレ 47 都道府県行脚」の目的は？**

**日本中の「GK」を「守護神」に。**

これが「ますトレ 47 都道府県行脚」の目的です。すべての「GK」が「守護神」になれるとは限りません。守護神になるためにはスキル、フィジカル、スピードなど、求められるものを挙げればキリがありません。しかもそれらは１日で急激に成長するようなものではありません。しかし、意識は１日で 180 度変えることができる、と僕は信じています。そして、意識を変えればセービングは劇的に変わり、スキル、フィジカル、スピードなどを継続的に強化するためのきっかけになります。ますトレ 47 都道府県行脚では意識を変革させることを目的として、取り組んでいきます。

また、2019 年には熊本で世界選手権が行われます。これは日本のハンドボール界にとって大きなイベントであることは間違いありません。その世界選手権に向けて日本中のハンドボーラーをひとつにしたいと考えています。今回のプロジェクトを通して、日の丸のフラッグに日本中で寄せ書きを集めて日本代表にエールを送ることも目的のひとつです。

**将来のビジョンは？**

ますトレの理念として、「日本代表の強化は GK から。GK の強化はますトレから」というものを掲げています。この理念を掲げることになった、あるエピソードがあります。

2017 年にフランスで行われた世界選手権で、日本代表はロシア代表と対戦しました。結果は 29 対 39 で惨敗。その試合後のロシア代表監督は「我々の勝敗を分けたのは GK のパフォーマンスだ」とコメントしました。このコメントは、日本で GK トレーニングを発信している僕に大きな衝撃を与えました。しかし、よく考えれば、そうなるのは当然なのだということにも気がつきました。日本では GK が専門的なトレーニングを行う文化もなければ、専門的なコーチもいない。どのようなトレーニングをすれば良いのかもわからないという状況でした。しかし、ますトレがその現状を打開できると僕は信じています。ますトレによって日本中で GK トレーニングの土台ができ、それが普及することで世界を舞台に活躍できる GK を誕生させることを目標にしています。そして必ずや、日本代表が世界で活躍できる日が来ることを願ってこれからも「ますトレ」に取り組んでいきます。

**インタビューを終えて：**圧倒されるパワーと疑問から生まれた情熱的行動力には人を惹きつける魅力に溢れていました。強い意志をもってどんな困難な壁にぶつかったとしても、決して諦めることをしない人柄を感じました。これからの新たな活動にも是非注目したいと思います。

（機関誌委員会・近久紀人）

# NTSブロックトレーニング報告 




**東北ブロック運営委員長　岡市　武**

開催日：平成30年９月29日（土）〜30日（日）
会　場：花巻市総合体育館
参加者：スタッフ８名（ディレクター、トレーナー、運営委員、技術指導員）
インストラクター９名、高校生34名、中学生31名、小学生34名
補助指導者35名（高校10名、中学11名、小学14名）
合計　151名

今回初めて、小学生、中学生、高校生が一堂に会しトレーニングを行いました。当初、小学生は宿泊しない予定でしたが、東北ブロック小学生委員長の今野大樹先生より、小学生も１泊２日で行って欲しいと言われ、急遽、宿舎を押さえていた花巻温泉に宿泊の追加が可能か確認を取りました。翌日、花巻温泉から宿泊可能の連絡を得て、日本協会にも予算内であれば可能であることの確認を取り決定しました。７月に入ってからのことでした。既に、各県運営委員の方々には要項、参加申請書等を送付済みだったので、小学生も宿泊させることを連絡し取り纏めていただきました。この場をお借りして各県運営委員、小学生担当者の方々の対応に感謝します。ありがとうございました。

また、台風 24 号の接近も予想され、１日開催の恐れもありましたが、幸い、台風の速度が遅く無事２日間行うことができました。

今回からトレーナーの方の参加もあり、ベーシック７を担当していただきました。正しい姿勢、やり方を学びながら選手も必死に取り組んでいました。

体力測定では、ボール投げでスタンドに投げ入れ測定不能な大記録を出した中学選手がいました。身長が 183cm もあり、将来が楽しみです。

トレーニングは、小学生を山本繁先生、中学生・高校生を荒井啓貴先生、GK を大沢勝先生に指導していただきました。

宿舎での講義は、小学生、中・高校生のふたつに分けて行いました。小学生は、今野先生が選手と指導者向けに講義を行いました。選手には、どの選手を目標にどういったプレーヤーになりたいか自己理解させ、指導者には、楽しく強化と普及を図るには学ぶしかないことを話されました。中・高校生は、男子ユースアジア選手権大会決勝を VTR で観戦させ、感想を述べてもらいました。パスをもらう前の動き、当たりの強さ、フェイントの鋭さ、シュートのコースとタイミング等が勉強になったとの感想がありました。

毎回、多くの関係者のご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。ハンドボールを選んでくれた未来ある子どもたちのために、今後もご協力をお願い申し上げます。

# NTSブロックトレーニング報告  



関東ブロック運営委員長　菊田 政行

開催日時：2018年９月29日(土)〜30(日)、
10月６日(土)〜９月７日(日)
会　　場：U-13　茨城県「行方市麻生小学校体育館」、
「行方市麻生体育館」
U-16「味の素 NTC」
参 加 者：(※延べ人数)
※ NTS スタッフ　43 名　※補助指導者 63 名
選手　小学生 36 名　中学生 74 名　高校生 38 名
合計　254 名

今年度の関東ブロックトレーニングを日本協会の主催・主管の下、９月下旬･10 月上旬の２週に渡り開催いたしました。運営・指導面ともにスムーズに展開され、U-13、U-16 共に１泊２日で実施いたしました。

インストラクターを始め指導スタッフの熱意あるご指導のおかげで、意図が明確でポイントが理解しやすく説明・実践されていると、トレーニング内容について選手・補助指導者からも大変好評でした。

U-16 のトレーニングは、NTC を利用したことで施設の使い勝手・設備の機能性に感服いたしました。選手にとっては素晴らしい施設でのトレーニングに、大いに励みになったことと拝察いたします。

開催の時期が例年より約１ヶ月遅れで、学校行事や大会・台風の余波等で参加の取り止めや当初の計画の一部に影響が出ましたことは残念であります。麻生薫 NTS 指導内容策定委員長をディレクターとしてトレーニングを、アスリートセミナーを吉村晃先生より選手・補助指導者に、さらに補助指導者にはコーチセミナーとして管理栄養士友利由希先生に栄養学のレクチャーを頂き、大変有意義な研修になりました。参加の選手並びに補助指導者の皆様には、この経験を糧に一層の努力精進をご期待いたします。

今後の課題としては、ブロックトレーニングへの補助指導者の参加率向上を図る事、あるいは参加の義務化を検討して頂き情報の共有と指導力・資質の向上に努めて頂きたいと思います。体力測定の結果についても記録の推移を公開し、その結果に基づいたトレーニング処方等を個々の選手に示して頂き､『世界基準の強い選手』への育成を切に願うところです。

また、例年 NTS への参加選手の輩出チームが県によっては特定化される傾向にあります。都県委員の皆様には NTS の方針なり情報・運営方法等が広く伝達される機会を確保して頂き、指導者の養成・資質の向上と競技力の向上を推し進めて頂きたくお願いいたします。

最後になりましたが、ブロックトレーニングの開催に当たり、多くの皆様のご理解・ご尽力に対しまして厚く御礼申し上げます。

# NTSブロックトレーニング報告  

近畿ブロック運営委員　松岡 国生

2018NTS 指導マニュアルをもとに近畿ブロック U-13・U-16 の指導を行いました。指導の特徴とポイントを報告します。

## U-16

**〈DF トレーニング〉**

DF トレーニングでは、ベーシック７にある基本姿勢の重要性、利き腕側への意識を基本として、昨年の NTS で行った牽制からクロスアタック・自マークの利き腕側・間合い・コミュニケーションを軸に指導を行いました。

**〈OF トレーニング〉**

タッチハンドではコミュニケーションと連動を意識。３人のパスでは対人だけではなくゴール方向を意識し、パス直後のバックステップの素早い切り替え、DF の間を狙う意識を指導しました。シュート（ポストシュート）トレーニングではポストの脚の方向付け、パスキャッチのスペース作り、またパサーが出すパスの質について指導を行いました。

３対３ではユーゴやバッククロスなどやることはわかっているが、ねらい目や意図などわかっていない選手が多くいたのでその点を中心に指導を行いました。

感想として、能力の高い選手はいるが、ねらい目を意識して、意図を理解して動いている選手は少なかったように思えました。トレーニング策定委員の方々の努力は十分理解していますが、選手は毎年変わっていくのでトレーニングを毎年変化させるより（もちろん必要なこともある）、日本の「基本の基」を教え込み、指導に関わる全国の先生や指導者などの共通理解となるようなトレーニングをと思います。

NTS トレーニングが東京オリンピック以降のオリンピック出場につながるよう期待しております。

## U-13

**〈DF トレーニング〉**

積極的な DF として、アタック動作をトレーニングした。ポイントとして、上半身だけで当たるのではなく、下腹部で突き上げながら身体全体で接触するフットワークの動きから、正しい姿勢で、アタック動作をハードに。また、DF は、パスを予測し、OF のキャッチのタイミングでアタックする動作を意識。牽制からアタックへの変化動作がスムーズに行えるように意識。オープン・クローズドスタイルを使い、様々な DF のスキルを習得させた。

**〈OF トレーニング〉**

ドリブルスキル・スピードを向上させる為に、ドリブル位置を意識させる。パスでは、肩甲骨の上方回旋を意識して、肩を上げる投動作を習得。場面に適したパスを選択する為、手首、肘での投動作を習得。腕を伸ばして掴みに行く、自然な片手パスキャッチ動作の意識習得。状況に応じた様々なパスを選択・習得。PV との１対１、BP としての様々なパターンの１対１突破スキル。優位な局面を維持し確実な OF を行うため、OF における駆け引き（戦術）を習得。

## 指導留意点

練習メニューを選手に説明するにあたり、理解しやすくなるように配慮すること（小グループで活動時間が多くなるように、数人の指導者が分かれて指導。選手にわかりやすい用語を使いながら、指導者が見本を見せながら視覚から取り入れる）。

## 全体を通して感想

近畿２府４県の中でも、差が大きく、パスキャッチやドリブルの基本スキルが身についていない選手が多いが、わかりやすく動作をゆっくり説明するなど、指導者の動きを見本に理解した。

選手は、普段行わないトレーニングに興味をしめして積極的に取り組んでいた。

今回、ベーシック７をトレーナーの方に指導いただき、アップやダウンのケアも指導していただきありがたかった。

# NTSブロックトレーニング報告  

四国ブロック運営委員　中田　慧

トレーニングの内容として、高校生・中学生は一日目の午前中に体力測定、午後に OF・DF トレーニングを実施し、二日目の午前中にも改めて OF・DF トレーニングを実施した上で、午後からは実践形式での練習としてゲームを実施しました。また、トレーナーの竹内さんを招いて、ハンドボールの基本的な動作に備えてのベーシック７を行いました。

OF 面では状況判断を行いながらのドリブルテクニックを向上させるトレーニング、動きの中でのパストレーニングおよびシュートトレーニング、さらに応用としてそれらの要素を取り入れた各種攻撃パターンの習得、DF 面では OF トレーニングと同様に状況判断を行いながら牽制を活かした守り方の習得等に重点を置きトレーニングに取り組みました。

具体的には、OF トレーニングでは状況判断の要素を取り入れ、まずドリブルテクニックの向上や１対１の局面での DF をいない方へ移動してのシュートトレーニング等の基礎練習を実施しました。さらに様々な局面での状況判断による攻め方の各種パターンを習得することが図られたように思います。また、DF トレーニングでは基本的な DF の姿勢をつくるトレーニングから OF へのコンタクトの方法、BP と WP 間での数的不利な局面における２対３の DF の牽制の方法、OF への対応方法等のトレーニングを行い、基礎的な技術の習得を目指し取り組みました。

一方、速攻のトレーニングにおいては、OF 側ではワンパス速攻の局面でのシュートへの運び方、DF 側では広いスペースへ運ばせないようにしながらの追い込み方等のトレーニングを実施しました。

# NTSブロックトレーニング報告  

九州ブロック運営委員　**安達隆博**

　2000年よりスタートしたNTSトレーニングは今年で19回目を迎えた。参加者、特に指導者の中には、19年連続で参加頂いている方から、初めて参加したという方まで実に様々であり、ハンドボールに関する多くの視点、価値観が共有されるまさに、九州ハンドボールのキモが集結する場として成熟してきたように思える。

　さて、長い間このトレーニングの主役は「選手」であった。短い期間で、選手たち一人一人が何かを感じ、意識が変わり、プレーが変わることが期待され、そのために、ご協力いただいた日本のトップコーチ達（黃氏、金氏、末岡氏、北林氏、小波津氏）の熱意溢れる指導は、大変好評であった。最近、「選手」という主役に「次世代の指導者」が加わり、NTSトレーニングは、ダブル主役となった。選手の競技力向上とともに指導者の指導力向上に寄与する場として定着してきた。九州各県でご活躍の若手指導者をコーチとしてブロックトレーニングを行うことは、指導者の主体的な学びの場として、新たな気づきを見出し、指導の幅を広げることにつながっているのではないかと期待している。なにより、現場の疑問点・要望が明らかになる。今年も、様々な意見が寄せられた。NTSブロックの運営としては、この疑問・要望を受け止め改善しながら進化させていくことが新たな課題となっている。

　今回のNTSでは、高校生の参加者のほとんどが高校1年生であった。自チームでは主力として活躍している選手は少なく、リーダーシップを発揮するという面では物足らない感はあったが、そこは指導者のパーソナリティで選手たちをうまく鼓舞し、時間が進むに連れて盛り上がり、充実したトレーニングとなったと思える。また、今回よりトレーナーが派遣された。怪我や不安を抱えながらプレーする選手たちにとって心強い存在であったと感謝している。

　熊本県では、ご存知のとおり、今秋開催の女子アジア選手権大会、来年開催の女子世界選手権大会に向け準備が着々と進んでいる。このアツい熊本の盛り上がりが、九州にそして、全国に広がることを期待している。九州ハンドボール協会、熊本県ハンドボール協会をはじめ、九州各県のハンドボール協会にはNTSブロックトレーニング開催にご協力いただき、無事に開催できたことを報告致します。地元、山鹿市総合体育館、山鹿市観光協会、オムロンハンドボール部、鹿本高校には、準備から片付けまで多大なるご協力をいただきました。モルテン様にもボールに関してご配慮いただきました。開催に際し、ご協力いただいた全ての方々に対して、この場をお借りして改めて心より感謝申し上げます。

# 帯同ドクター報告　第6回U22東アジア選手権

帯同ドクター　松村 健一（多根総合病院スポーツ整形外科）

香港・九龍にて開催されました U22 東アジア選手権の帯同について報告します。

〈事前準備〉

2017 年ジュニアのアジア選手権が前回と同様の会場で行われ宿泊地も同様でありました。

会場すぐ隣のホテルであり、移動は徒歩にて数分程度と立地は申し分なく、食事もビュッフェスタイルでありますが内容に困ることはない程度と確認できました。

大使館の HP より香港における渡航時の注意点を確認しました。鳥インフルエンザの感染や PM2.5 など大気汚染についての注意喚起が有りましたが、手洗いうがいなどの基本的な対処法を励行することが重要とのことでした。また水道水は WHO の基準を満たしているとのことでありましたが、主に現地の方も湯冷ましを摂取しているとの情報があり注意しました。時期としては夏季であり熱中症対策として日焼け止めの準備と事前の講義で水分摂取の重要性を説明しております。

帯同の決定時期は 4 月中旬と早期の決定にて入念な準備期間が取れたと思います。しかし、初回の召集時にメディカルチェック（シートの記載など）を指示できていなかったため、新たな選手の把握や、昨年から引き続き選出された選手の新たな怪我の情報などの把握が遅れました。今後初回招集時にはルーティーンで行うべきことかと考えます。また男子も同様に帯同させてもらうことになっておりましたが、男子スタッフや選手との顔合わせが直前合宿でありメディカルチェックや遠征に関する体調管理の注意点、ドーピングの啓蒙や注意点などの共有が出発直前になってしまったことは今後の反省点であります。また講義には上記情報の提供と海外へ渡航する経験の無い選手（半数以上）やスタッフもいるため、滞在先の香港という国や街、機内での過ごし方（マスクの使用、機内食について、血栓症対策など）について一般的な範囲で含めました。

また 2017 年ユース女子アジア選手権に引き続き行った内容として、超音波機器（エコー）を貸出が可能な業者より貸与を受け持参致しました。さらに選手自身でのコンディション把握の一旦として、以前よりユースで導入されている尿比重計により尿比重測定を行い、これを日々の体温・脈拍・体重・睡眠とその程度とともに作成したチェックシートに記載することとしました。事前のスタッフとのミーティングや選手への講義より了解を得て、直前合宿より導入いたしました。

〈移動〉

香港へは約 5 時間で時差は 1 時間であります。事前にマスクの準備などを促しておりましたが今回の使用率は低く、今後の大会に向けてよりコンディションの調整については引き続きアプローチを続くけていく必要があると考えます。他移動に関して特記事項はありません。

〈大会期間中〉

移動について先の述べたように香港・九龍については申し分なく、会場までホテル裏口よりすぐ隣であり、練習時間、試合時間、ミーティング時間、休息時間など有効に調整できていました。ただし練習時間や練習場所の割り振りなどについては不十分であり、随時組織委員会に掛け合い調整を続けることが必要でありました。また時期が夏季であり、非常に暑く、また多湿で室外ではすぐに汗をかくため、終始ミネラルウォーターでの水分補給を行い、室内の冷房が強いため長袖などでの体調管理に努めました。

ホテルの設備やスタッフなどは問題ありませんでした。空調は強く、外気との差が激しく寒暖差に注意する必要がありました。食事に問題なく、種類も豊富にあり、大会を通じて選手も十分摂取しており、目立った体重の現象もありませんでした。レストランで提供されている水は水道水ですが、煮沸して使用されており摂取可能であ

りました。水や生野菜の摂取などについて特に禁止をせず、情報を伝え選手に任せておりました。今回胃腸系での疾患は発生なく、整腸剤の使用も全く必要としませんでした。ただし、個人個人の食事内容については偏りがあり、糖分を多く含んだジュースの摂取やデザートの摂取などユース世代で難しい部分も有りますがアスリートの食事内容としては改善点があり、コンディショニングやパフォーマンスへの影響なども含めて情報提供などアプローチを続ける必要があります。

今回も毎朝毎晩と尿比重を測定し、脱水の指標として利用しました。水分摂取状況を見ていると全体を通して水分摂取不足な状態では有りましたが、以前から摂取を促していた女子については比較的比重は低く出ていました。事前からの水分摂取の必要性を伝えていく必要があると感じます。結果は体重、体温など毎日記載するシートに私自身が記載することと、結果のグラフを作成し、各自自分の状態を確認できるようにしました。講義や実際の測定、フィードバック含め、継続が重要であります。今大会期間中にはミネラルウォーターが試合や練習毎に600ml が 24 本程度支給されていました。量としては少なく適宜追加購入にて対応しました。

練習や試合を通じての外傷については、女子では発生がありませんでした。男子では以前からの腰痛の選手・利き手中指 PIP 関節の捻挫の選手・足部ショパール関節捻挫の 3 選手でかかりつけ医より検査では異常なく経過観察とされていたものにエコーを使用し疼痛部位に明らかな器質疾患はなく、選手、チームスタッフと相談の上、注射にて対応しました。また合宿時よりアキレス腱周囲に痛みがあり、大会途中に悪化したがエコーにて器質損傷なく炎症所見のみであり、同様に注射を行いました。最終戦前日の試合で利き手側の僧帽筋中部線維あたりの疼痛を認めた選手でエコー検査にて筋損傷がないことを確認し、同様に注射にて対応しました。大会中の症状の悪化や、大会終了後の悪化もありませんでした。事前に外傷など負っている選手などの情報について、画像検査内容や対応したドクターなどの情報提供もあれば大会時のより適切な対応も可能と考えます。

その他疾患についてですが、男子 1 名女子 1 名に蕁麻疹が発生しリンデロン VG 軟膏、レスタミンクリームにて対応しました。また女子選手 2 名で結膜炎が発生しクラビット点眼を使用しております。

ドーピング検査は今大会を通じて行われておりません。

### 〈反省点〉

チームが編成された時点でのメディカルチェックができればカテゴリー間で統一した形でアンケートも含めて行え、より選手のケア、体調管理などに有効と考えます。

男子チームへの事前合宿への参加、また参加しての講義が不十分であると感じました。セルフケア、コンディション調整の重要性やまたドクターに何ができるのか、具体的にドクターズバックにどういった内容のものが準備されているのか、エコーで何がわかるのかなどを選手やスタッフに周知してもらうことを引き続き行う必要があります。

幸い大きくコンディションを落とすことなく大会に臨めましたが、香港という利便性などに助けられた部分はあります。男子への体調管理の徹底への情報不足、女子へは前回遠征からの慣れなどもあったのか、手洗い、うがい、消毒、マスクの使用など基本的な自己管理、体調管理が不十分であったかと感じます。世界選手権などの長期遠征や、また過酷な環境の地域などで足下をすくわれないように管理、指導を徹底する必要があると考えます。

### 〈謝辞〉

帯同に際して日本協会の原田さん、床尾さんには様々な手続きにご尽力いただきありがとうございました。今回もまたエコーの持ち込みが可能でありスムーズに搬入できましたことも皆様のおかげであると思っております。

チームスタッフの皆様にはドクターとして動きやすい環境を作っていただきありがとう御座います。

帯同ドクター報告 # U18女子世界選手権

帯同ドクター　松村 健一（多根総合病院スポーツ整形外科）

ポーランドのキェルツェにて開催されましたU18女子世界選手権の帯同について報告します。

### 〈事前準備〉

世界選手権への帯同決定は4月中旬と早期であり各準備期間が十分にあり決定時期としては申し分ありませんでした。

世界選手権であり、大会関連についての事前の情報量は十分な物がありました。日本協会の床尾さん始め皆様からの適宜日本語に訳した情報により、事前準備に事欠かず大会を迎えることができました。また今大会の前に開催された7月のU22東アジア選手権に私自身も同様に帯同をし、ドーピングコントロール・メディカルチェックなど行い、選手状態も把握できていました。現地情報を大使館やインターネットを用いて調査し、気候・治安・感染症情報・水事情・食事などを確認しています。

昨年から継続した内容ですが、帯同に際して体調管理の重要性を選手に対して説明し、発熱・脈拍・体重・睡眠を選手自身で記載できるシートを作成しました。また体調管理の一貫としてパフォーマンスに繋がる体内の水分状態の指標として尿検査での尿比重測定を継続して行うことも事前の講義にて周知しております。

超音波検査機器(エコー)については各競技団体でも帯同での有用性が叫ばれており、貸与機器が使用されている場合があるため、帯同決定した段階でこれを抑える準備をしました。現在は企業のご好意により無償での貸与となっておりますが、今後費用がかかる可能性はあります。

### 〈現地〉

会場は2会場あり、練習場は5箇所用意がありました。いずれも滞在先ホテルよりバスで10-15分程度でした。滞在先ホテルについては、都市の中心地からは離れた長閑な田舎町にあり人通りも少なく、治安も良好で過ごしやすい場所でした。部屋も清潔で、シャワーなどの設備も問題ありませんでした。食事はビュッフェスタイルでありますが、メニューは豊富ではなく、日本より持参した炊飯器での白ご飯を中心にフリーズドライ製品やレトルト食品を併用し対応しました。フルーツやヨーグルトなどの提供があり積極的に摂取できていました。生野菜は周囲に小蝿が付着することが多く、別にボイルされた野菜の提供もあり、これを摂取していました。

気候は日本と同様に四季あり、真夏の時期でありました。しかし最高気温も30度程度であり、日本ほど多湿でもなく、滞在中は天候にも恵まれ快適でありました。

水道水はWHOの基準を満たしているとのことでありましたが、飲水にはミネラルウォーターを使用するのが一般的であるとの事前情報より、同様に行いました。物価は安く1.5Lで30－40円程度でありました。

ドクター部屋にエコーを設置し、尿比重測定も同部屋で行い、尿比重や体重の変動などをグラフに作成し、スタッフ・選手にて提供し状態の把握・共有に努めました。実際には現地での病院受診を検討する外傷や疾病はなく、エコーを使用する事なく経過した事は幸いでありました。また尿比重測定の結果は朝夕それぞれで日々の経過をグラフにして選手に提供しました。選手が自身の状態を自分で確認できるように事前講義の中で体内の水分バランスの重要性や運動に最適な尿比重の数値を伝えております。同様にバイタルの測定については自身で記載し、日々確認をさせ自己管理で対応してもらい、変動が目立つようであれば声かけを行うようにしました。

### 〈移動〉

ポーランドへは乗り継ぎやバス移動を含め,日本出発から約21時間程度の長時間の移動のため、時差対策や移動時の機内での運動や食事のタイミングなどを日々の会話の中や、事前講義にてある程度指示し対応していました。睡眠のアンケートなどでの睡眠不足や、時差による訴えなども実際にはありませんでした。

### 〈大会期間中〉

大会の組織委員会より十分量のミネラルウォーターの提供がありましたが、硬水でありかつ微炭酸のため選手は使用できず、購入にて対応しています。スポンサーによるミネラルウォーターの提供であり、数チームより要望があったようですが変更は困難でありました。

ホテルの設備やスタッフなどは問題ありませんでした。食事などは先に述べたとおりであり、持参分も含め工夫し十分摂取できていました。大会を通じて目立った体重減少はなく経過しました。1名便秘からの下痢症状が2日続きましたが整腸剤にて改善しております。

今回も毎朝毎晩と尿比重を測定し、脱水の指標として利用しました。昨年の遠征より今回で尿比重測定が同一のカテゴリーで3回目になります。気候が良好であることと世界選手権での試合スケジュールが比較的余裕があることもあり、水分摂取状況は以前と比べても良好でありました。また選手各々が自身の比重を気にかけて水分摂取に役立てている話題も出ており良い傾向でありました。選手が数値を意識しており自身で水分量の調節を測る姿勢になっている事が昨年から引き続き行なってきた成果として感じました。今回はドクターサイドより経口補水液を提供せずに各自に調整を任せ、指示する程度にしました。

練習や試合を通じての外傷についてですが、1名接触

プレーでディフェンスの際に口唇の深い裂創を受傷しましたが、試合中止血可能でした。しかし、その試合の重要性などから受傷した試合は出場しない方針となりました。即日宿舎にて縫合処置を行い、以後の試合は出場し帰国前日に抜糸しております。１名同様に接触プレーにて頸部の表皮剥離ありデュオアクティブにて対応しました。また１名最終戦で相手選手の頭部が鼻に接触し軽度の鼻出血認め、くの字に変形し鼻骨骨折を疑いました。帰国後病院受診し鼻骨骨折の診断にて整復が行なわれました。また直前合宿前の受傷による捻挫の痛みや腫脹、打撲による膝痛がある選手が数名おりましたがテーピングやサポーターで対応していました。大会を通じて別メニューでの練習を要した選手はいませんでした。

また疾病については、下痢を伴う胃腸障害が１名、肘の湿疹が１名、口内炎が２名であり、いずれもドクターズバック内での投薬で対応しています。

ドーピング検査についてはテクニカルミーティングの際に IHF の担当ドクターより検査が今大会において行われる旨と選手の選出方法について説明がありました。実際はグループリーグのノルウェー戦にて検査が行われ、大会を通じて日本選手には１度のみでありました。試合開始前に担当ドクターよりハーフタイムにオフィシャル席にいる担当ドクターの近くに来ることを指示され、実際のハーフタイムに担当ドクターより女子トイレに仮設置されたドーピングコントロールルームに案内されました。そこで自チームの選手２名の番号を書いたコインサイズの紙を選び封筒に入れ封をし、サインをしました。試合後検査官により封が開けられ１名の選手が決定し、選手に付き添い検査室に行き必要事項の記載をし、検体を 90ml 採取する必要がありました。必要書類としてはパスポートの原本が必要でありました。約 50 分で採取が可能で有りましたが、検査を受けた選手用の移送手段はなく、チームには先にバスで帰宅してもらい検査後に選手と一緒にタクシーで戻ることとなりました。

グループリーグから決勝トーナメントの間に休息日があり、その前日に急遽参加チーム全てにドーピングのセミナーが行われることが通達され、行なわれました。内容は英語で約 20 分程度ドーピングについての説明と違反事例、必要な書類や実際の検査の様子、検査方法などを簡単にまとめた内容でありました。内容が英語であったため団長と私で分かれて選手に伝えました。最後はチームのキャプテンが呼ばれ、アンチドーピングのロゴが入った揃いのＴシャツを着てセミナーの担当者と写真撮影をするといった催しもありました。

### 〈全体を通じて〉

昨年のU18アジア選手権から引き続きのチームであり、メンバーも数名程度の変更でありました。今年の７月のU22 東アジア選手権もほぼ同様でありました。よってチーム事情や、選手状態、またスタッフ間の連携など十分把握し大会に臨めました。やはり同一カテゴリーや同一チームに一定したドクターが帯同することの重要性、有用性を感じました。情報の共有といった点でスムーズであり、コンディションのチェック項目や尿検査など一貫して行なっており、世界選手権では自身の数値を積極的に気にする姿勢も見られ、意識の向上を認めました。ただし、まだ高校生や大学１年生といったユース世代の表れなのか、前の帯同報告にも有りましたが『日本代表』としての意識には生活状況や練習、試合を通しての状況からは距離があるとも感じています。ドクターとしてどこまで意識改革に携われるか難しいところであるが、細かなところにも気を配った対応や、体調管理などをこちらが行う姿勢が選手にも普段のチームとは違う意識を芽生えさせるのではないかとも愚考しております。このあたりは選手にも煩わしいと思われるかも知れませんが、そのギリギリのところでストレスをなるべく感じることなく継続して行きたいと考えております。

また今回ドーピング検査を選手含めて初めて経験をしました。しかし、ジュニア世界選手権の清水先生によるハンガリーでの帯同報告が非常に役に立ち、これをベースに選手やスタッフにもドーピングに関する段取りを周知しておりましたので、滞りなく進めることができました。

状況からは同様の流れで今回のユース世界選手権のドーピングに関する事は進んでおりました。

今回エコーの持ち込みに際して新たに正式な税関申請を行いました。詳細な手続きは貸出業者により行っていただきましたが、ATA カルネという申請で正式に税関に申請する事により各国で没収される事なく、また税関の申請で本来支払うべき税金の免除が得られるというもので有ります。持ち込み国によって手続きが出来る国とできない国が有り、ポーランド は可能で有りました。時々医療機器の持ち込み時のトラブルがあるようですので、今後場合によっては必要な手続きになるかと考えます。

### 〈謝辞〉

帯同に際していつもながら日本協会の原田さん、床尾さん、NTC の河上さん、様々な手続きにご尽力いただきありがとうございました。特に世界選手権で有り、また様々なカテゴリーでの遠征が重なる時期で有り多大なご苦労があったかと思います。

昨年から引き続き同チームのスタッフである田中監督、安藤コーチ、木村トレーナー、田口分析スタッフの皆様にも心より感謝申し上げます。役割分担がはっきりとしており、スムーズに行動できました。選手の今後も応援し続けるとともに、スタッフの今後の発展もお祈りし、私の報告とさせていただきます。

# 第17回女子ハンドボール アジア選手権大会

2019 女子ハンドボール世界選手権大会のアジア予選を兼ねる国際大会が**熊本**で開催されます！
世界選手権出場 3 枠を勝ち取るのは果たしてどの国か！？　また、アジア NO.1 の称号を勝ち取るのはどの国か！？
熱戦が期待されます！！

**【試合日程】**　平成 30 年 11 月 30 日（金）から平成 30 年 12 月 9 日（日）

**【試合会場】**　熊本県立総合体育館、八代市総合体育館、山鹿市総合体育館

**【出場チーム】**　Aグループ：1. 日本　2. カザフスタン　3. イラン　4. オーストラリア　5. ニュージーランド
Bグループ：1. 韓国　2. 中国　3. 香港　4. シンガポール　5. インド

## 開催都市のミニ情報

### 熊本市

**【おいしい食べ物とビールを片手に試合を観戦】**
熊本県立総合体育館では、会場外に飲食ブースを設置します。おいしい食べ物（からあげ、揚げピザ、牛串等）とビールを片手に迫力のある試合を観戦してみませんか。女性・子どもには嬉しい甘いスイーツもありますよ！

熊本県立総合体育館

### 熊本の街を走る人気者「市電」

大正 13 年（1924 年）に開通した熊本市の路面電車、市電。2 つの系統で市内を東西に走る交通網として市民や観光客に幅広く利用されています。車両は昔懐かしいレトロなものから 2014 年に導入された新型車両「COCORO」までさまざま。運賃は市内均一料金に設定されており、全国の交通系 IC カードの相互利用サービスにも対応しています。夏にはビール電車 " ビアガー電 "、クリスマスシーズンにはイルミネーション電車が登場するなど、熊本市内を盛り上げる存在として市民から親しまれています。2019 女子ハンドボール世界選手権大会のラッピング市電も 11 月 25 日から、来年の大会開催まで、市内を走ります。

熊本駅、熊本城、水前寺成趣園、アーケード街など、熊本市の主要な場所に行くのにも便利で、観光客の皆さんに利用しやすい交通機関です。1 日乗車券を購入すれば、500 円で乗り放題。市電の中からゆっくり眺める街の風景は、また違った魅力がありますよ。

## 清らかな水が育む「農産物と食」

清らかな地下水をはじめとする豊かな自然に恵まれた熊本市は、米、野菜、果樹、花き、畜産など、さまざまな農産物の生産が盛んで、産出額は政令指定都市で３位、全国市町村でも８位を誇ります（2014 年）。特に、スイカ、メロン、なす、みかんなどの全国有数の生産地です。

熊本の名物と言えば、「馬刺し」「辛子れんこん」「熊本ラーメン」などが真っ先に挙がりますが、郷土料理以外でも、自慢の水と、その水が育む農産物で作る料理は「何を食べてもおいしい！」と思っていただけるはずです。見るだけの観光なんて、もったいない！熊本は、旅の醍醐味でもある「食」でも、皆さんの期待を裏切りません。

## 山鹿市

山鹿市総合体育館は、1997 年の男子世界ハンドボール選手権大会や全国大会の実績があり、日本ハンドボールリーグでは、山鹿市に本拠地を置くオムロン戦が数多く実施されている会場です。

山鹿市は、熊本県の北部に位置し、豊かな自然や温泉、歴史文化遺産や伝統工芸・芸能、豊富な農林産物などが特徴です。

中でも、良質で肌ざわりがやわらかな温泉である「さくら湯」、国指定重要文化財である明治の芝居小屋「八千代座」、先月 10 日にグランドオープンを迎えたばかりの「菊鹿ワイナリー」に注目です！

山鹿市総合体育館の外観

山鹿温泉 さくら湯

八千代座の内観

菊鹿ワイナリーの全景

# 八代市

**【八代市総合体育館】**

八代市のスポーツ拠点となる施設。
日常的なスポーツ活動はもちろん、大規模なスポーツ大会にも対応。

## 八代市の見所

九州のほぼ中央に位置する八代市は、古くから文化や経済の中心として発展してきました。
堀と石垣に昔日の風情を残す城下町、600 年の歴史を秘めてたたずむ日奈久温泉。
満々と水をたたえ八代海へ注ぐ球磨川、山深き平家落人伝説の里五家荘。
異国情緒あふれる時代絵巻八代妙見祭、全国の花火師が集うやつしろ全国花火競技大会。
歴史の薫り、文化の彩り、交流の賑わい、八代には、いろいろな素顔があります。
豊かな自然と風土につつまれた「やつしろ」を訪れてみませんか？

今が、旬♪

## 晩白柚（ばんぺいゆ）

ギネスブックに認定された世界最大の柑橘類。
八代を代表する果物。とてもさわやかな香りをはなち、その実は果肉だけではなく、皮もお菓子などに使われます。
重さは約 2 ㌔、直径は 20cm を超える。収穫時期は 12 月～ 2 月。
日奈久温泉では、12 月中旬～ 1 月にかけて、晩白柚を湯船に浮かべる「晩白柚風呂」が楽しめます。

生産量日本一！

晩白柚

トマト

い草